PTA新聞 ふくおかけん

発行所／
〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50
福岡県吉塚合同庁舎5階
福岡県PTA連合会
TEL092-643-7766 FAX092-643-7767
編集発行人／松尾　和昭

県P連ホームページアドレス http://www.fukuokakenpta.gr.jp　県P連電子メールアドレス info@fukuokakenpta.gr.jp

福岡県ＰＴＡ連合会

令和2年度活動方針決まる

共に築き育もう
～子どもたちのために協働的活動を～

新型コロナウイルス感染症の不安が残る中、福岡県ＰＴＡ連合会（県Ｐ）の令和2年度活動方針が決まりました。総会を開く社会情勢にはなく、議案書を単位ＰＴＡなどに送付し、委任状、あるいは議案ごとに書面で賛否を判断していただくという初めての方法での決定。新会長には松尾和昭さん（八女市立福島中学校ＰＴＡ）を選出したのをはじめ新年度役員が決まりました。「共に築き育もう～子どもたちのために協働的活動を～」をスローガンに「単位ＰＴＡの意見を尊重しながら子どもたちの健全育成を目的とした活動により、会員も成長することができる事業を行う」との基本方針です。具体的な取り組みとして、スマホ、インターネットのツール使用によるトラブル防止への問題提起や各地域の実情に合った事業のあり方を検討していくことなどが決されました。【2、3面に関連記事】

人、監事2人を選任。総額4549万9554円の一般会計予算案と保険特別会計予算が書面による手続きで承認されました。

単位ＰＴＡなどから届いた書面には「コロナウイルス第2波、第3波も懸念されます。無理のない児童の教育環境・安全のためにオンライン教育や9月入学などについてのアンケートを」「企業が協力してもらえるＰＴＡ活動の取り組みを考えてほしい」などの要望も書かれていました。

松尾新会長は「密閉、密集、密接の3密を避けてＰＴＡがどう汗を流していくのか。会議・研修会の開催方法など未知の部分があまりにも多いが、子どもたちの学習の遅れなどの課題には、先生たちだけではなく保護者の力も必要。インターネットなどの活用も含めて教育委員会との連携も深め取り組みたい。このほか、いろいろ計画している具体的施策は、コロナの感染予防対策の観点から計画通りには実施できないと考えていますが、今だからこそ、やらなければならないこともあると考えています」と話しています。

なお、前年度ＰＴＡ活動に尽力された皆さんや団体には感謝状、表彰状が県教委などから贈呈されました。

抱負と決意を述べる松尾和昭・新会長

松尾新会長は「新型コロナウイルスの問題が続く未知の世界。今こそ、会員の皆さんが前を向いて、子どもたちのためによくしていきたい。皆さんの学びの場にもなっているＰＴＡを、さらに活性化していきたい」と抱負。

副会長12人のうち、6ブロックを代表する6人

松尾和昭 新会長（福島中）がメッセージ

保護者と教職員が学びあう場をめざす

私は平成21年に長子が小学校に入学したときに1学年の学級委員長を引き受けました。このときから私のＰＴＡ活動が始まりました。最初はＰＴＡが何なのかわからず「しなくていいのならしたくない」「いろいろな保護者とのコミュニケーションをとるのがいや」「会議に行くのが面倒くさい」など、いろいろな思いがありました。わが子が小学校を卒業するまでの6年間に、学年委員長・監事・書記・副会長・そして会長を2年経験しました。

この6年間で、ＰＴＡと学校・地域との連携の必要性を実感し、保護者の子どもたちに対する思い、学校に対する期待などを肌で感じました。6年もＰＴＡ役員等に関わると、うれしい言葉もかけられ、また厳しい言葉も聞き、活動を続けてきました。その後、長子が中学生となり私も、中学校で役員を引き受けました。

中学校は小学校の時とは違い活動に余裕もできいろいろなことができました。

私はこの9年間の活動を通じて多くの保護者との出会いがあり、先生たちとの話す機会が増え、最初のＰＴＡのイメージが大きく変わりました。本当にやってきて良かったと実感しています。平成28年からの4年間は、福岡県ＰＴＡ連合会に携わってきて、多くのことを学ばせていただきました。私たち会員の目指すところには、子どもたちの「健やかな成長」「安心して学べる環境」「子どもたちの笑顔」など多くの未来があります。

私たち会員は保護者と教職員で組織されています。立場の違う両者が向かうべきところを共有し、力を合わせ共に学び合い一つとなることがＰＴＡとしての姿のように思います。「健やかな成長」では、保護者は愛情、先生は情熱などを惜しみなく注ぎ、また「安心して学べる環境」には、多くのことが含まれますが、その中の一つとして保護者同士のコミュニケーションがとても大事だと考えております。

ＰＴＡ活動を通じて、会員が多くのことを学ぶ場となればと考えます。ＰＴＡという組織を最大限に生かし、必要とされる組織を目指します。

〈新会長のプロフィール〉
松尾和昭　1973年、八女・星野村の農家の生まれ。八女農業高卒。熊本の農林水産省の農業試験場、福祉施設に勤めた後、身障者のサポートや、宿題を教えたり一緒に遊びを楽しんだりすることに力点を置いた児童サポートに取り組む社会福祉施設・福心会を起こした。

12年前に、地元の八女・長峰小のＰＴＡの役員に。県Ｐの副会長は3期。昨年は日本ＰＴＡの九州ブロック研究大会の福岡県大会実行委員長も務めた。

尊敬するのは、江戸時代、困窮していた米沢藩の立て直しに尽力した上杉鷹山。小5から高3まで2男2女の父。八女市在住。

副会長の皆さん

2面に抱負

天野　亮

山田道夫

後藤正和

香月まゆみ

中村雄司

鬼頭良典

川原未絵

廣瀬　啓

清原龍彦

川上洋一

岡　洋介

秀村香織留

県P新執行部スタート　2、3面　広報紙コンクール　4、5面

新型コロナ 活動は臨機応変に／ＰＴＡを楽しみましょう／「ワンチーム」で

副会長12人が抱負

会　務　川原　未絵

子どもたちの笑顔を守るため「今、できることは何か」を考え、適宜に対応していくためには、家庭・学校・地域、それぞれの力が必要です。さまざまな体験を通して、親も子も、共に学び、共に成長していけるよう活動してまいります。

会　務　廣瀬　啓

会務担当副会長5年目になりました。新型コロナウイルスで今年度は例年にない状態での船出となりますが、県Pの活動も臨機応変に、時代・状況に合わせて変化しながら、福岡県の子どもたちのため、そして保護者の学びのために、できる時にできるだけをモットーに、引き続き尽力していきます。

会　務　清原　龍彦

子どもたち、学校、家庭の環境が変わっていく中で、ＰＴＡのあり方も変わっていく必要があります。いろいろなＰＴＡの活動を知ることで、自分たちに適したＰＴＡを作り上げることができると思います。県ＰＴＡ連合としてできることを考え活動してまいります。「子どもたちの笑顔のために」。

会　務　川上　洋一

今、日本や世界を震撼させている新型コロナウイルスの影響で学校教育が危機的状況に陥っています。そのようなときにこそ家庭教育の大切さが再認識されます。この有事に福岡県ＰＴＡ連合会が県内各単位ＰＴＡのため、各県内の家庭のため、各地域のために何ができるのかを考え、活動してまいります。

会　務　岡　洋介

たくさん笑う子どもには力強い人生が待っています。人の脳はミラーニューロンという神経細胞を通すことで、自分が見ている人の感情を再現します。子どもに一番近い感情は家族の感情です。つまり、家族が、親が楽しんでいる姿を見るのが子どもの幸せです。
楽しみましょう！

会　務　秀村香織留

子どもたちを取り巻く環境はだれもが未経験の特別な状態になっています。だからこそ多くのことを考え、学び、親として、子どもたちの幸せと笑顔のために進んでいけたらと思います。ＰＴＡとして多くのことをインプットし、多くの人へアウトプットできるよう努めてまいります。

福岡ブロック　天野　亮

現在、子どもたちを取り巻く環境は、非日常的な環境になっています。親として何ができるだろうか、葛藤している毎日ですが子どもたちの未来のため、一歩一歩前を向きながら、今できることを実行してまいりたいと思います。今年度よろしくお願い致します。

北筑後ブロック　山田　道夫

3月から、私たちの生活状況は大きく変化しました。不安の中、長い休校期間を経た子どもたちが、安全に健康に、そして何より楽しく仲間たちと過ごしていけるよう、保護者としてできることを考えます。地域の皆さまに支えていただきながら、学校と深く連携をとってまいります。

南筑後ブロック　後藤　正和

ブロックＰＴＡ活動を通じ学校、家庭、地域それぞれの立場で意見を出し合い活動案を決定し確実に実行することで安全で常に笑顔も絶えず、生徒たちが未来に希望を持てる環境を作りたいと考えています。それらを達成するためには、皆さまのご理解とご協力が必要です。どうぞよろしくお願い致します。

北九州ブロック　香月まゆみ

「縁があり、人と人がつながり、絆が生まれる」「同じやるなら楽しもう！」という思いでＰＴＡ活動をしています。自分自身子育てを通して、保護者・学校・地域とつながり、学び、子どもとともに成長できるよう、今できることを前向きにとらえ、行動していきたいと思っております。

筑豊ブロック　中村　雄司

新型コロナショックにより自粛生活で始まった新年度は、本当に思いがけないことでした。改めて学校、地域、家庭の連携の大切さを考えさせられるできごとになりました。子どもたちの健やかな成長を目標に、「ワンチーム」の意識をもってＰＴＡ活動に取り組んでいきたいと思います。

京築ブロック　鬼頭　良典

感染症対策の影響により学習の遅れや子どもたちの心のケアなどの心配や不安、学校行事の中止や延期といった大変な幕開け。各学校や単位ＰＴＡ、関係機関との相互間の連携を図り、スムーズな運営となるように『共助』の精神で、取り組んでいきたいと考えております。

令和2年度　県P活動方針

《基本方針》

共に築き育もう　～子どもたちのために協働的活動を～

本会は、社会教育関係団体としての組織の特性を理解し、各ブロック・区市郡・市町村ＰＴＡ、教育委員会との連携を図り、単位ＰＴＡ（以下、単Ｐ）の意見を尊重しながら子どもたちの健全育成を目的とした活動により、保護者も成長することができる事業を行う福岡県ＰＴＡ連合会（以下、県Ｐ）を目指す。

《各委員会等の活動方針》

▽役員会・理事会

重点目標　本会の役割を十分理解し、その目的達成のための組織づくりや運営に努める。

具体的施策

①各委員会事業推進のためスムーズな運営を図る。②各地域のＰＴＡ組織との情報交換を図り、連携を強化する。③各地域におけるＰＴＡ活動の状況を把握し、実情にあった事業のあり方を検討する。④教員の働き方改革を支援する。⑤ＰＴＡへの任意加入問題への対応の協議。

▽総務委員会

重点目標　教育条件の改善と組織力の強化を図る。

具体的施策

①会則の検討・見直し。②スケールメリットを活かした県教委への陳情・対談。③市町村代表者会議の企画・運営。④他の委員会に属さない事項に関する取組。

▽研修委員会

重点目標　ＰＴＡによる研修の必要性の啓発とＰＴＡ活動に活かせる研修を実施する。

具体的施策

①ＰＴＡ役員研修会の企画・運営。②スポーツ等を通じての交流会の企画・運営。

▽広報委員会

重点目標　県Ｐ事業の周知と全県的情報の共有を図る。

具体的施策

①県Ｐ新聞の企画・取材・校正・発行。②広報紙づくり研修会の企画・運営。

▽安全・調査委員会

重点目標　子どもたちを取り巻く環境調査とその対応策を検討する。

具体的施策

①通学路の安全確保の推進と研修（ＰＴＡ役員研修会と合同実施）等。②スマホやインターネットツール使用によるトラブル等に対する問題提起。③Ｓｔｏｐ・ザ・非行ふくおか福岡市大会への参画。

▽家庭教育委員会

重点目標　家庭教育の重要性を再認識し、親と子が共に学び成長できる事業を実施する。

具体的施策

①〝新〟家庭教育宣言の継続とステップアップ。②〝新〟家庭教育宣言実践報告会の企画・運営。

▽母親代表者会

重点目標　県Ｐの運営に母親の視点で積極的に参画し、研修会の実施等を通じて、母親代表の連携を図る。

具体的施策

①母親代表者研修会の企画・運営。

▽ＨＰ管理運営委員会

重点目標　県・ブロック・区市郡・市町村・単Ｐ間の情報網の定着を目指す。

具体的施策

①県Ｐホームページの充実。②情報発信ツールの活用。

令和2年度 福岡県ＰＴＡ連合会役員・理事会名簿

役職	ブロック等	区・市・郡	所　属　校	氏　　名
会長	南筑後	八女市	福島中	松尾　和昭
副会長	北筑後	うきは市	浮羽中	川原　未絵
	北筑後	小郡三井区	宝城中	廣瀬　　啓
	北筑後	小郡三井区	のぞみが丘小	清原　龍彦
	南筑後	三潴郡	大木中	川上　洋一
	南筑後	大川市	大川桐薫中	岡　　洋介
	筑豊	飯塚市	椋本小	秀村香織留
	福岡	筑紫区	天拝中	天野　　亮
	北筑後	小郡三井区	宝城中	山田　道夫
	南筑後	みやま市	山川中	後藤　正和
	北九州	遠賀郡	島門小	香月まゆみ
	筑豊	田川郡	赤池中	中村　雄司
	京築	行橋市	仲津小	鬼頭　良典
理事	福岡	宗像区	自由ヶ丘小	林田　宏貴
		糸島市	深江小	東山　忠志
	北筑後	小郡三井区	菊池小	福岡　信義
		久留米市	浮島小	元根　圭介
	南筑後	筑後市	古川小	野田　芳彦
		柳川市	東宮永小	菊次　晃一
	北九州	中間市	底井野小	下田　章人
		直方市	直方東小	藤野　　勇
	筑豊	嘉穂郡	桂川小	川野　寛明
		飯塚市	穂波東小	塩川　辰郎
	京築	行橋市	椿市小	宮下　貴光
		豊前市	千束中	中本　瑞樹
	母親代表	筑紫区	安徳北小	早田　沙織
		直方市	直方東小	宮﨑　里美
	校長会	小郡三井区	のぞみが丘小	渡邊　正則
		筑紫区	大野東中	岩野　展夫
監事	福岡	筑紫区	那珂川南中	松島　正和
	北九州	遠賀郡	内浦小	吉田　信雅

福岡県ＰＴＡ連合会事務局
〒812-0046　福岡市博多区吉塚本町13番50号
福岡県吉塚合同庁舎５階
TEL(092)643-7766
FAX(092)643-7767
【事務局長】稲尾　茂　【事務局次長】城戸みゆき
【事務局職員】奥　真由美　末永　道代

新型コロナ、手を取り合って　新･旧理事会

令和２年度の理事会の皆さん

福岡県ＰＴＡ連合会（県Ｐ）の新・旧理事会は６月６日午後、福岡市博多区吉塚本町のＪＲ吉塚駅前にある県中小企業振興センター会議室で開かれ、会長、副会長、理事、監事らが出席し令和元年度から２年度への引継ぎが行われ、新型コロナウイルス下のＰＴＡ活動への決意を新たにしました。

松尾和昭・新会長は「私はＰＴＡで、親が手を取ることによって子どもたちの問題を解決できることを学んだ。何をやっていかなければならないか、かたちにしたい」とあいさつしました。

前向きにやれることをやりましょう
新･旧母親代表者会議開く

母親代表者会議の皆さんもマスクをつけて

福岡県ＰＴＡ連合会（県Ｐ）の令和２年度の新・旧母親代表者会議は６月６日午前、福岡市博多区の県中小企業振興センター会議室で開かれ、新代表には早田沙織さん（安徳北小ＰＴＡ）、副代表に宮崎里美さん（直方東小ＰＴＡ）をそれぞれ選出しました。

新型コロナウイルス予防に万全を期すために例年より約１カ月遅れての開催。会議には、県内の６ブロックの新しい母親代表者が参加。コロナ対策の一つとして前年度のメンバーは、代表と副代表が参加しました。いずれもマスクをつけての会議。松尾和昭・新県Ｐ会長は「思った通りの動きができないコロナウイルス下で、前向きにやれることをやっていきましょう。楽しい会にしてください」とあいさつ。退任した永原譲太郎・前会長は「できる人が、できることを少しずつ持ち寄って〝かたち〟にしてください」と話しました。

早田沙織 代表

宮﨑里美 副代表

前年度の母親代表の皆さんから指摘のあった「夫婦でＰＴＡ活動18年。もっと早くに県Ｐのことを知っておけば単位ＰＴＡ、市ＰＴＡに生かすことができた」「父親委員がないのが、そもそも理解できません。男女平等といわれて何年ですか?」などの声は「課題・反省」などとして紹介されました。松尾新会長は「母親の視点から、女性としての意見を、積極的に出してください」と話しています。

県Ｐの委員会活動や事業などの取り組みの説明も行われました。「県Ｐの活動を通して、いろんな地域の方と知り合える」「ラインで連絡を取り合って進めるといい」などのアドバイスも出ています。早田沙織さんは「子どもが幼稚園のころからＰＴＡ役員をやっているが、保護者、子どもたちの話を聞いて楽しく勉強します。ＰＴＡの働き方改革にも取り組むことができたらいい」と話しています。

ＰＴＡ活動に　ご尽力ありがとうございました

ＰＴＡ活動で、表彰状や感謝状を贈られた皆さんは、次の通りです。（一面参照、敬称略）

福岡県教育委員会から感謝状を受けた個人

◇会長＝永原譲太郎、副会長＝吉村竜一、岡部義彦、氷室健太郎、和田朋子、野上真吾、大塚政宏◇理事＝嶌下智堂、石丸充、武末亮、境真秋、楠見和幸、宇都宮正幸、田中渉、豊瀬敦、松田将志、小島弓枝、清水由美子、東野正美、髙畑彦◇監事＝船元幸徳、畠中聡子

県Ｐから感謝状を受けた団体

（第64回日本ＰＴＡ九州ブロック研究大会福岡県大会　分科会全体会実施の連合会）

▽古賀市立花見小学校ＰＴＣＡ▽宗像市立南郷小学校保護者教師会▽糸島市立引津小学校ＰＴＡ▽那珂川市立那珂川南中学校ＰＴＡ▽筑前町立夜須中学校ＰＴＡ連合協議会▽広川町立中広川小学校父母教師会▽筑後市立筑後北中学校ＰＴＡ▽中間市立中間西小学校ＰＴＡ▽嘉麻市立稲築東小学校ＰＴＡ▽築上町立葛城小学校ＰＴＡ

県Ｐから表彰状を受けた個人並びに団体

◇個人（単位ＰＴＡ会長３年以上、区市郡Ｐ連会長又は母親代表２年以上で退任の方）

☆福岡ブロック▽宗像区＝玄海中・久田龍、日の里中・砂留昌樹▽糟屋区＝志免西小・日田鉄也、千鳥小・宮本紗代、須恵第三小・矢野裕児▽筑紫区＝春日野小・高村博人、春日原小・米田幸司、二日市北小・池田隆浩、太宰府東小・井上健之介、太宰府西小・牧元慎治、水城小・古川謙太郎、天神山小・福井治夫、阿志岐小・岡田充弘、吉木小・高千穂有信、春日東中・石津大地、春日野中・森山繁樹、太宰府西中・伊藤崇広、那珂川南中・松島正和、那珂川北中・衛藤政博▽糸島市＝加布里小・庄島明宏、姫島小・松尾光徳、前原小・金ヶ江司

☆北筑後ブロック▽朝倉市＝杷木小・小嶋洋志▽小郡三井区＝東野小・鯉川武徳、立石小・篠原博秋▽久留米市＝善導寺小・山下尚、荘島小・篠原靖典、津福小・田住和也、西牟田小・大津静生、犬塚小・石垣大輔、宮ノ陣中・権藤龍利、筑邦西中・轟晋造、三潴中・田川真也

☆南筑後ブロック▽三潴郡＝大木中・砂川幸、大木中・古賀佳代子▽柳川市＝柳南中・江崎安宏、昭代中・待鳥伸司▽大牟田市＝中友小・森竜子、宅峰中・相原秀政、田隈中・湯村知加、甘木中・中原健二▽みやま市＝日高中＝久保田学

☆北九州ブロック▽遠賀郡＝吉田小・渡邉一也・山鹿小・金田泰俊、猪熊小・松永広和、岡垣東中・前田泰志▽中間市＝中間南中・内田久仁子、中間北中・入江武、中間中・田中伸尚▽直方市＝直方南小・谷清美▽鞍手区＝宮若西小・安永秋徳、宮若東中・山元秀一、小竹西小・小川ヒトミ

☆筑豊ブロック▽田川郡＝大任小・宮田芳光、赤小・大場正治、鷹峰中・廣谷純枝、金田中・大坪純子、勾金中・牧有▽田川市＝大浦小・中川美香、猪位金学園・森本和彦、金川小・加治将貴、中央中・金本恭幸、伊田中・宇都宮正幸▽飯塚市＝伊岐須小・上田岳義、大分小・塚本基樹、椋本小・仲村聡一郎、飯塚第一中・久保井英樹、鎮西中・山崎雅之▽嘉麻市＝碓井中・田中豊和

☆京築ブロック▽京都郡＝久保小・村中一郎、上高屋小・大迫光浩、与原小・宮本夏樹▽行橋市＝行橋中・豊瀬敦▽豊前市＝角田小・髙木伸一、大村小・梅丸晃▽築上郡＝椎田小・中原功一、西吉富小・茂森慶太

◇同（各ブロックＰ連の推薦による）

☆福岡ブロック▽糟屋区＝花見小・吉村竜一

☆北筑後ブロック▽朝倉郡＝夜須中・岡部義彦

☆南筑後ブロック▽八女郡＝中広川小・氷室健太郎

☆北九州ブロック▽中間市＝中間西小・和田朋子

☆筑豊ブロック▽嘉麻市＝稲築東小＝野上真吾

☆京築ブロック▽築上郡＝葛城小・大塚政宏

◇団体（各区・市・郡Ｐ連の推薦による）

▽古賀市立花見小学校ＰＴＣＡ▽筑前町立夜須中学校ＰＴＡ▽久留米市立牟田山中学校父母教師会▽大川市立田口小学校父母教師会▽八女市立星野中学校父母教師会▽広川町立中広川小学校父母教師会▽みやま市立瀬高中学校父母教師会▽岡垣町立内浦小学校ＰＴＡ▽中間市立中間西小学校ＰＴＡ▽みやこ町立伊良原小学校ＰＴＡ▽みやこ町立伊良原中学校ＰＴＡ

県Ｐから感謝状を受けた個人

（会長・副会長・理事・監事・委員の退任者）

◇会長＝永原譲太郎◇副会長＝吉村竜一、岡部義彦、氷室健太郎、和田朋子、野上真吾、大塚政宏◇理事＝嶌下智堂、石丸充、武末亮、境真秋、楠見和幸、宇都宮正幸、田中渉、豊瀬敦、松田将志、小島弓枝、清水由美子、東野正美、髙畑彦◇監事＝船元幸徳、畠中聡子◇総務委員＝花田和親、高村博人、古賀盛記、井上哲也、濱島康彰、原田友貴栄、永松千寿、山中浩、縄田哲也◇研修委員＝黒木大五郎、権藤明夫、川原大輔、上田修、小石原美紀、江藤美千代、小島啓一、松﨑修◇広報委員＝赤田勝也、砂川幸、小波幹雄、上田岳義、緒方美保、山口真由美、國﨑真一、石橋勝志◇安全・調査委員＝秋根眞人、小嶋洋志、中原健二、梅野元気、吉田ヒロミ、髙瀬里沙、相良昌代、冨山拓二郎、小野聡一◇家庭教育委員＝矢野裕児、宮﨑秀明、本多弘和、三根広次、服部聖志、大山晴美、坂井満

第8回広報紙コンクール　県教育委員会賞に桜原小と宇美東中

福岡県ＰＴＡ連合会（県Ｐ）の第28回広報紙コンクールには、小学校32校、中学校９校の応募があり、審査の結果、10校が入賞しました。県教育委員会賞には、宇美町立桜原小学校ＰＴＡの「さくらばる」と、宇美町立宇美東中学校ＰＴＡの「わかぐすの道」が選ばれました。

審査の基準は①ＰＴＡ活動の実態を掲載していたか②積極的な企画性・アイデアが見られるか③地域との連帯感があるか―などでした。

今回の審査は、新型コロナウイルス感染症対策のため審査会場に集まって選考をせずに各審査員が、それぞれ自宅などで審査しました。県教育庁の富松文夫社会教育課長は「身近にある疑問などを調査やインタビュー形式で具体的に伝えているものや、ＰＴＡ自身の取り組みや地域の団体などと連携した取り組みなどを掲載している広報紙が高評価につながった」と講評しています。

入賞校には、ＳＮＳ時代の広報紙づくりの努力、創意工夫、苦労などについて寄稿していただきました。他の受賞校ＰＴＡは次の通りです。

〈西日本新聞社賞〉▽小学校＝大牟田市立銀水小学校父母教師会「ぎんすい」▽中学校＝飯塚市立飯塚第二中学校ＰＴＡ「かがやけ」

〈県ＰＴＡ連合会会長賞〉▽小学校＝筑紫野市立筑紫東小学校ＰＴＡ「ひがしの風」▽中学校＝大牟田市立歴木中学校ＰＴＡ「くぬぎ」

〈優秀賞〉▽小学校＝大牟田市立羽山台小学校ＰＴＡ「はやまっ子」、飯塚市立飯塚小学校ＰＴＡ「いいの山」、久留米市立荒木小学校父母教師会「わかば」▽中学校＝大任町立大任中学校父母教師会「きずな」

地域の皆さんの　取材や編集への　協力も大きな力です

県教育委員会賞

宇美町立桜原小ＰＴＡ「さくらばる」

新聞をつくるにあたり、大事に育ててきたのは人脈です。広報委員だけでは書けない記事も学校や地域の方々、その道の専門家の協力を得ることで味がある記事になります。

靴と足の健康を語り出したら止まらない、地元で有名な久保田先生へ靴について取材したのは三十数年ぶり２度目です。中学時代の取材を思い出し、今回の取材も快く応じていただきました。

子どもたちを巻き込んだ荷物の重さの実験は、楽しい思い出です。ネタは委員さんとおしゃべり、文章は先生にヒントをもらい、構成は新聞、雑誌の力を借りる。専門家に頼るのがラクな新聞づくりのコツです。

（令和元年度広報委員長・杉村　ひとみ）

宇美町立宇美東中ＰＴＡ「わかぐすの道」

広報紙づくりに福岡県ＰＴＡ連合会70周年記念誌を参考に話しやすい委員会にすることを徹底しました。１年間の取り上げる記事を４月の時点で決め、学期ごとに内容を振り分け、その都度、先生方と掲載内容を調整しました。

一番苦労したのが３校合同交流会。各学校のＰＴＡ会長や教頭先生、いろいろな方々のつながりによって実現しました。３日間の職業体験では、笑顔で受け入れて下さった企業の方々、小さい子への思いやりを育てる子育てサロン。取材を通し子どもたちに対する熱い想いを知りました。その気持ちを３学期お祝いメッセージに掲載させていただきました。

（令和元年度広報委員長・松尾百恵）

西日本新聞社賞

大牟田市立銀水小父母教師会「ぎんすい」

「見て楽しく、知って驚き、ためになる！」を合い言葉に、地域の方々にも見やすいように、各学期のメンバーで文字の大きさやレイアウトを工夫して作成していきました。

まちづくり協議会の方へのインタビューでは改めて地域とのつながりを再認識しました。本校の伝統である銀水太鼓の取材では、当時指導をされていた先生にもお話をうかがい、学校の歴史に触れることもできました。

役員相互の連携を大切にしながら、その年ごとのカラーをいかした紙面作りを、これから大切にしていきたいと思います。

（令和元年度広報委員長・金子　素子）

飯塚市立飯塚二中ＰＴＡ「かがやけ」

栄えある賞を受賞できて感無量です。今回は、読者に「伝えたい」ことを中心に据えて新聞を作成しました。２号の「子どもの自傷行為」については、わが子や周囲の保護者から、ちょうど耳にして、とても衝撃を受けたため、ぜひテーマにしたいと編集会議で提案しました。しかし、単に啓発するようなありきたりの内容にはしたくなかったので、地域総合病院の精神科医に取材して専門的な視点から話を伺いました。先生には、事前に質問事項を提出していたので、回答となる資料をご準備いただき、とても記事が書きやすかったです。

委員会としては、実際に集まった回数は少なかったけれど、ＬＩＮＥで感想や情報を共有したり、海外の出張先から原稿を送ってきてくれたりと、正にオンラインでつながった新しい形の活動でした。

（令和元年度教養委員会・渡邉　福）

県ＰＴＡ連合会会長賞

筑紫野市立筑紫東小ＰＴＡ「ひがしの風」

このたびの受賞を大変うれしく思っています。

広報紙「ひがしの風」では、コミュニティ・スクールとしての活動を「子どもも大人も読みたいと思える紙面」で伝えることを目標に作成してきました。

スムーズな委員会運営のために、前年度の委員経験者が１名残り、新メンバーとともに紙面づくりに取り組みました。作成にあたっては、委員が集まることが難しく、ＳＮＳを活用しました。ＳＮＳ上では、記事の作成や写真の選別など、意図が伝わらない・操作がわからないということもありましたが、コミュニケーションを密にとるようにしました。

（令和元年度広報委員・平田　朋美）

大牟田市立歴木中ＰＴＡ「くぬぎ」

昨年度の歴木中広報委員会は、学期初めに取材する行事を全部ピックアップして、各委員が都合をつけて役割分担を行いました。取材原稿と画像などはメールで編集担当に送り、記事にまとめ、年３回の新聞発行を行いました。委員間の連絡は全てコミュニケーションアプリで行い、効率よく合理的な活動ができたかなと思います。

このように、言葉にしてしまうと簡単ですが、皆さん仕事や家庭のことをしながらの活動のため、調整に手間取ることもありました。しかし、広報の仕事に携われたからこそ、子どもたちの笑顔やがんばる姿をたくさん見ることができ、本当に感謝しています。

（令和元年度広報委員長・前川　美和）

第2回広報紙コンクール 県教育委員会賞は桜原小と宇美東中

優秀賞は4校

大牟田市立羽山台小ＰＴＡ「はやまっ子」

羽山台小学校の広報委員会のメンバーには、パソコン操作の得意な人もそうでない人もいます。それぞれの持ち味を生かし、活字と手書きを織り交ぜています。広報紙作成に当たっては、「学校・地域・保護者の連携」を心がけています。そのため、「子ども見守り隊の紹介」や「地域のコミュニティセンター設立」など地域の方にも取材しています。見守り隊の方と学校・保護者を結ぶ「安全マップ」づくりの継続など、これからも連携しながら取り組んでいきます。

（令和元年度広報委員長・西川　由希）

飯塚市立飯塚小ＰＴＡ「いいの山」

広報紙「いいの山」では、委員さんがほとんど入れ替わりとなりましたが、前年度の反省をふまえ、あらかじめスケジュールを決め、役割分担を行ったことで、スムーズな広報紙作りができたと思います。どの委員さんも積極的に協力していただけたこともとても心強かったです。

（令和元年度広報委員長・中園　夏季）

久留米市立荒木小父母教師会「わかば」

行事の報告だけでなく、災害への備えやＰＴＡ・地域の方の活動などを幅広く記事にしました。内容に関連したクイズを出題し、親子で一緒に読めるように工夫しています。「できる人が、できる時に、できることをする」をモットーに自分たちが楽しみながら作りました。

（令和元年度広報委員長・今村　美千代）

大任町立大任中父母教師会「きずな」

広報紙づくりの経験者を中心に、内容や構成の検討を繰り返し、楽しく読んでもらえるような紙面づくりを心がけました。広報紙を通じて、ＰＴＡ活動や学校行事を紹介し、学校・保護者・子どもたちの「きずな」が深まる一助になればと願っています。

（令和元年度文化教育委員長・白石　昭子）

宇美東中ＰＴＡの皆さん

宇美町からダブル受賞

桜原小ＰＴＡの皆さん

広報紙から家庭・学校・地域のつながりを

福岡県教育庁
社会教育課長
富松　文夫

今回、小中学校合わせて41団体からの応募があり、そのうち、1次審査を通過した小学校の部10団体、中学校の部5団体について最終審査を行いました。

どの作品も、読み手を意識したアイデアあふれる力作が多く、審査員一同、審査に大変苦慮しました。

小中学校とも、広報紙発行の目的やテーマ性を強く持ち、記事や写真、見出しの大きさやレイアウトを効果的に活用するなど、担当の方々の創意工夫が伝わり、「また読みたい！」と思える広報紙が多くみられました。

内容面では、身近にある疑問などを調査やインタビュー形式で具体的に伝えているものや、ＰＴＡ自身の取り組みや地域の団体等と連携した取り組みなどを掲載している広報紙が高評価につながっています。

さて、広報紙には多くの写真が掲載されていますが、その配置、大きさ、枚数によって、その効果が変わってきます。カラーで作成する場合は、ページ全体の色合いも考えながら、作成することをおすすめします。

広報紙は、ＰＴＡ活動の理解を深め、協働して活動する喜びを味わい、活動の仲間を増やし、活動の活性化を図るものです。今後もその作成過程や配布、感想の聞き取り等を通して、家庭・学校・地域のつながりを一層深めていただきますようお願いします。

最後に、入賞された単位ＰＴＡの皆さま、おめでとうございます。入賞を逃した単位ＰＴＡの皆さまも、ぜひ次回のコンクールに出品していただき、広報紙を介した交流を図っていただければと思います。

講評

学びがあれば、次も読みたくなります

西日本新聞社
編集センターデスク
山本　孝子

一次審査を通過した15紙はどれも工夫を凝らしており、優劣をつけるのは難しい作業でした。紙面には編集する方々の熱意があふれ、限られた人員と時間で完成度の高い新聞を作り上げた努力に感服しました。

特に印象に残ったのは、独自のテーマでの取材に取り組んだ3紙でした。桜原小「さくらばる」。子どもの靴選びや自由研究へのかかわり方など、保護者に関心の高いテーマを特集。薬物防止講演会の記事では、要点をコンパクトにまとめながら保護者への問題提起もありました。

飯塚第二中「かがやけ」は、修学旅行や制服変更について保護者と生徒へアンケート。このほか、子どもの自傷行為について医師に取材したり、受験傾向を教師に取材したりと、モノクロ紙面ながらもそれを感じさせない力作で、まさに「読ませる新聞」でした。

宇美東中「わかぐすの道」も定期テストの傾向と対策、ＳＮＳのマナーなど、身近な問題の特集が目をひきました。

多忙な中、多くの取材をするのは難しいでしょう。まずは「いち押し」記事づくりから始めてはどうでしょう。一般紙の編集者は、担当面の読ませどころを決め、工夫を凝らします。同様に、何を伝えたいのか熟考してみてください。行事を「～があった」と書くだけでは、新味がありません。厳選した写真と見出しで見せるとか、内容を掘り下げ問題提起するとか。力を入れた記事は読者の印象に残り、そこに学びとなる内容があれば、次も読みたくなります。読者が毎号読みたいと心待ちにするような新聞をめざすとともに、新聞づくりを楽しんでいただければと願っています。

広報紙づくり、県Ｐ70周年記念誌の活用を！

地域と歩む協働の取り組み

●田川市立弓削田中

筑　豊

弓削田中学校では、校区活性化協議会と連携し、「弓削田の神幸祭」「夏祭り」など多くの取り組みが地域の方々とともに行なわれています。

また、PTAが中心となり「飛躍日会（ひやくにちかい）」、保護者・生徒合同の「ソフトバレーボール大会」などがあります。

「飛躍日会」＝**写真**＝は昭和60年度から行われています。この会は、生徒が進路実現に向けた決意表明を行なったり、保護者の応援する気持ちを届けたりするものです。生徒はこの会を境にさらに気持ちを高め、がんばっています。

「ソフトバレーボール大会」は、平成3年度からの取り組みです。生徒と保護者が分会（地域別）ごとにチームとなり、トーナメント方式で優勝をめざしました。ふだん、なかなかふれ合う機会がありませんが、汗を流し楽しむ中で、お互いの絆が深まりました。今年度も実施する予定です。

弓削田中学校は令和4年度をもって、新しい中学校に再編・統合されるため閉校しますが、子どもたちの思い出に残る、そして、いつまでも「誇れる母校」となるようPTAをはじめ地域の方々と協力し最後の最後まで、がんばっていきます。

（弓削田中教頭　大井　喜幸）

地域の「人と文化」にふれる

●上毛町立上毛中

京　築

地域での文化活動が盛んな4つの小学校区から生徒が集う上毛中学校では、コミュニティ・スクール（CS）の取り組みの一つとして「文化講座」があります。生徒数や活動場所などを考えて講座数は10前後。講師は地域で活躍されている方々を学校評議員などのCSスタッフの方にご紹介いただいています。講師の方々には人員をはじめ、楽器や衣装、調理器具、体験セットなどを準備していただいています。

生徒たちにとっては、聞いたことはあるけど実際に見たことがなかった地域の文化や道具・楽器など、本来自ら足を運ばないとふれることができない地域の文化が、学校で体験（**写真**は上毛龍神太鼓）できるすばらしい企画です。

この講座を通して、生徒たちは地域の良さとともに講師の方々や他学年の仲間とのコミュニケーション能力を伸ばすことができています。PTAは、学校の応援団としてこの貴重な活動を支え協力していきたいと考えています。今年度は、学校をはじめ地域の活動が制限され企画が思うように進まないのですが、会員の皆さまと一緒に笑顔で、できるだけ、できることを探して、活動していきたいと考えています。

（上毛中PTA会長　井林　静江）

届け！応援メッセージ

●宮若東中

北九州

宮若東中学校は、開校8年目の学校です。生徒たちは、合唱・あいさつ・10分間時間いっぱい取り組む目問清掃を誇りとしています。しーんと静まりかえった掃除時間、その後の帰りの会では、全てのクラスから大きな歌声が響いてきます。

特に合唱が盛り上がるのが、文化祭の午前中に行われる合唱コンクールです。全てのクラスが金賞をめざして、一生懸命に練習します。

そんな子どもたちの姿を見て、「ステージに立つ子どもたちを勇気づけるようなメッセージを送りたい」という声が保護者から上がりました。

そこで、平成25年度の開校時から、PTA学年委員会の取り組みとして、「合唱コンクール応援横断幕」を作成することになりました＝**写真**。

それ以降、文化祭の時期になると、学年委員会が呼びかけをし、各学年の保護者や先生方がアイデアを出し合って5以の横断幕を作成します。完成した全学年分の横断幕は、文化祭当日、体育館の後ろ正面に掲示します。ステージに立った生徒たちは、緊張の中で正面に見える横断幕に勇気をもらって精いっぱいの合唱を披露します。

（宮若東中PTA会長　米丸　貴史）

新型コロナ　わが家とPTAと…

計画表に基づき生活するように

今、世界中で起こっています新型コロナウイルスとの闘いで日々患者の看護に従事されています医療関係の方々、また、たくさんの方々が第一線で働いておられますこと本当に大変だと思います。

わが家は、中学3年生、1年生、小学5年生、1年生との6人家族です。

緊急事態宣言が出て外出自粛になった後は、まずやるべきことは家庭学習であり家庭の手伝いであると思いました。一人一人にそれぞれの計画表を作らせて、いつ学校が始まってもいいように朝何時に起きて一日をどうすごすのか、方向性をつけました。なるべく計画表に基づいて生活するようにそれぞれが努力するようにしています。

そんな中、小学5年生の女の子がよく弟の面倒を見てくれたり、食後の食器を洗ってくれたりと普段やらないことをやってくれるようになりました。5月下旬、分散登校が始まり1年生の子どもを初めて小学校に送りました。その時、正面玄関で新PTA会長さんと副会長さんが笑顔で子どもたちを迎えていました。いろいろな行事が中止になる中、自発的に考え行動されたのだろうと思いました。その行動を見て、「今、自分に何ができるのか」と深く思いました。

改めて、PTAというのは先生方ができること、親としてできることを、お互いが協力し合いながら子どもの成長とともに親として成長していかなくてはいけないと思いました。

とにかく今は、コロナウイルスにかからない努力をしながら人のことを考えて行動し、与えられた環境の中でしっかりと自分を見つめ日々を過ごしていかなくてはいけないと思っております。改めて普段の何気ない生活がいかにありがたく尊いかを感じています。

早く安心して暮らせる日々がおとずれることを願うばかりです。

（広報委員　嶌下智堂）

うれしい子どもの料理チャレンジ

老人福祉施設に勤務しており、新型コロナウイルスの感染状況をチェックするのが毎日の日課になっています。

老人福祉施設でクラスターが発生したというニュースを目にするたびに、もし自分の施設で起きたらと考えると、日々、戦々恐々としています。館内の消毒、職員の手洗いの徹底、できることはすべてやっていますが、目に見えない敵との戦いは、いつまで続くのかと考えると、身が細る思いです。まぁ、実際はやせてはいないのですが（笑）。

わが家に目を向けてみますと、おこもり生活によって、子どもたちは、ゲーム、テレビ、YouTubeとメディアに、どんどん洗脳されていっています。使い方によっては、遠隔授業など有効活用ができるのに、その活用が義務教育においてスタンダードになっていないのが、たいへん残念でなりません。これを機に議論が進み、諸外国に負けないシステムができあがったらなと思います。

最後に、このおこもり生活でひとつうれしいことは、子どもたちが料理にチャレンジしていることです。ひとつでも多く、料理を覚え、作る楽しみを感じてくれたなら、将来の役にたつ有意義な時間の使い方をしてくれているのだなと前向きな気持ちになれます。

先の見えない戦いですが、新型コロナウイルスの早期終息をみなさんで祈りましょう。

（広報委員　豊瀬　敦）

北筑後

地域とともに、いも収穫体験

●うきは市立福富小

福富小学校では、毎年地域・学校・保護者が連携した取り組みを行っています。その一つに学校の畑で育てたさつまいもを地域の方々と焼きいもにして味わう「とれたぞおいも祭り」があります。

昨年度もPTA、地域の方の協力で、全校児童が、それぞれのペアの学年と力を合わせて苗植え、さつまいもの収穫を行いました。近くの千草保育園の〝年長さん〟には、5年生がペアになって優しく植え方やさつまいもの掘り方を教えていました＝**写真**。

収穫したさつまいもは、11月の学習発表会「はぜのき祭り」の後、それぞれの学団に分かれて焼きいもにしておいしくいただきます。これが「とれたぞおいも祭り」です。そのお世話は、地域の方々や保護者が行います。

焼けるまでが地域の方とのふれあいの時間となり、子どもたちは地域の方と顔を見知った関係となります。

ほくほくに焼けたいもを友だちや家族と分け合いながら食べているときの子どもたちは、みんなにこにこ顔です。

このように子どもたちは、地域の人に見守られながら心豊かに育っています。

（福富小PTA会長　古賀　章稔）

福　岡

地域とともに田植え…餅つき

●糸島市立福吉中

福吉中学校はコミュニティ・スクールとして、地域と連携した学校づくりを推進しています。その一つに、総合的な学習の時間における「農業体験」があります。

これは、地域の方からお借りした実習田で餅米を栽培するものです。生徒は種まきから稲刈り、餅つきまでを通年で体験します。この取り組みは二十年以上前から続いており、さまざまな世代間の交流と郷土への理解を深める取り組みとして、PTA会員をはじめ、地域の方々からも高い期待と評価を受けています。

ことしは新型コロナのためできませんでしたが、昨年は6月に全校総出で田植えを行いました。百人の生徒が横一列になり昔ながらの手作業で一斉に苗を植えていきます。水の冷たさや泥の感触、ふいに顔を出す虫やカエルに歓声とも悲鳴ともわからない生徒たちの声が響いていました＝**写真**。

秋には稲刈り、冬には餅つきです。餅つきではシニアクラブの皆さんに指導をしていただきました。できあがったお餅は地域の福祉施設に配付し、喜ばれています。

この他、「福井神楽」「吉井浜思ひ出の歌」など地域の伝統を学び、継承していく子どもたちを地域全体で育んでいます。

（福吉中PTA会長　秋根　眞人）

南筑後

地域密着「皿垣ふれあい学習」

●柳川市立皿垣小

どの学校もこの時期は、これといった行事がなく、県P新聞を執筆する学校を決める会議は静かなものでした。私は、記事にしたい内容がなかった訳ではありませんでした。そこで、本校の門松作りを始めとする活動を紹介することにしました。

皿垣校区は、昔、猿楽師の集落だったそうで、現在でも江越八幡宮東御風流という秋祭りが行われています。この伝統を守り続けている皿垣風流保存会の皆さんの協力で6年生が立派な門松を作ります＝**写真**。この日には、他学年も地域の方を講師に招き、親子一緒に活動する「皿垣ふれあい学習」を実施しています。私の子どもがいる4年生では、地域の植木職人を招き、正月に飾る寄せ植えを、5年生では、自宅に飾るしめ縄作りをしました。

この他にも、柳川市で唯一の芝生のグラウンドをPTAや地域の方と協働で維持管理していることも記事にしたい内容の一つでした。しかし、新型コロナウイルス感染症で休校措置がとられ、芝生の上での運動会も中止となり、記事にできませんでした。

一日も早く新型コロナ感染症が終息し、日常の生活に戻れることを願うばかりです。

（皿垣小PTA会長　久富　善雄）

県教委通信

自ら学び、考える子の育ちを願い

新型コロナウイルス感染症の拡大により、家庭でのオンライン学習等が脚光を浴びています。福岡県教育委員会では、県のHPに「臨時休業中の子供たちの学習・生活サポート資料集」等を公開し、子どもが自ら学ぶ環境を整備しています。また、家庭教育支援の一環として、HP「ふくおか社会教育ネットワーク」に「お家でできる体験遊び」サイトを設け、県立社会教育施設の職員が作成した体験遊びなどの動画も公開しています。

一方、家庭で過ごす時間の増加から、子どもの接し方に不安を感じている方も多いと思います。福岡県と福岡県教育委員会が協力して作成した「福岡県家庭教育のすすめ」のチラシでは、保護者の皆様に家庭教育の大切さと役割を考えていただくため、家庭で実践していただきたい11項目を提案しています。

これらの取り組みは、子どもたちが自ら学び考える力を育む上で、重要であると考えております。ぜひ活用していただきますようお願いします。

「福岡県家庭教育のすすめ」は、上のQRコードからダウンロードできます。

（社会教育課）

福岡県ＰＴＡ連合会　ＰＴＡ活動災害保障制度のお知らせ
安心してＰＴＡ活動を行って頂くために
「PTA活動災害保障制度」をおすすめします。
（ＰＴＡ団体傷害保険・ＰＴＡ賠償責任保険・受託者賠償責任保険・生産物賠償責任保険）
※保障制度の詳細については、制度取扱代理店にお問合せください。
●制度に関するお問合せ先：制度取扱代理店　株式会社コーリン（福岡県ＰＴＡ連合会保障制度事務局）
ＴＥＬ：0120−228-553（受付時間：平日午前９時～午後５時　土・日・祝日、年末年始を除く）
●制度引受保険会社：ＡＩＧ損害保険株式会社　損害保険ジャパン株式会社
2020年７月現在の内容です。

山際千津枝の 食べるってなあに >98<

「お母さんのおにぎりを食べた子どもは、決してグレたりはしません」

ある座談会でその女性は力強く発言しました。周囲も納得顔でうなずいています。私は少し躊躇しながらも言ってしまいました。「根拠は？そしてデータはありますか？」

視線が一斉に私に向けられました。またあの人が意地悪なことを言って！味方がいないのでかえって闘志が湧いた私は「コンビニで握ったおにぎりではもちろんダメですか…お父さんのでは？」と続けて、場を思いっきり白けさせてしまいました。皆さん。私を意地悪だと思われますか。

お母さんの握ったおにぎり…響きの良い優しい言葉です。でも子育ってそんなに簡単でしょうか。もし子どもが少しでも横道にそれたら、母親が握ったおにぎりを食べさせなかったからと言われるのでしょうか。残酷でしょ。耳に心地よい言葉に要注意です。信じて、受け入れるとなんとなく心が落ち着きます。でもそれで良いのでしょうか。

「野菜類は皮に一番栄養があるのでむいて食べるのはもったいない」

疑いもなくその通り、だからこそ少し気をつけましょう。皮には紫外線から害虫、細菌から野菜や果物を守る成分が集まっています。アクや渋み、苦味、辛味。植物が自身を守る成分が人間にも同じような形で役に立っていることは証明されています。昆虫や哺乳類に食べられないためのアクや苦味や辛みは、「忌避物質」と言われます。ほど良ければ問題なしですが、過剰になればまずくなるどころか、害にもなります。

私もリンゴは皮のまま。最近ではモモも小さなキウイもうぶ毛を落としただけでかじります。でもピーマンは少し考えます。炒めても煮てもおいしいのですが、生では…。あのツルツルした皮、これが薄い割には手ごわくて、消化が悪いのです。生に肉みそをつけてバリバリ食べた日の夜は胃が痛みました。低学年の子どもやお年寄りには負担ですよ。何につけ絶対ということはないのです。受け入れる前に自分でも調べてみましょう。

ぴったりの本を見つけました。元村有希子さん（毎日新聞論説委員兼編集委員）の著書『カガク力を強くする！』（岩波ジュニア新書）。その中に「疑い、調べ、考え判断する力を一人一人が身につける重要性」とありました。科学的に考えるためメッセージが満載です。

子どもたちと一緒に、今のこの時代を賢く乗り切る力を養ってください。

心に科学を

マングースの独り言

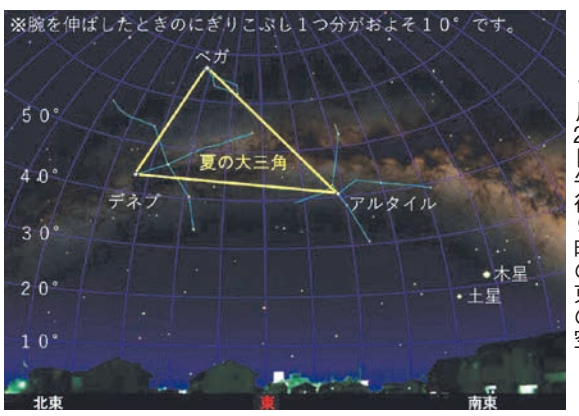
科学館発 夢☆特急

福岡県青少年科学館

特集

明け方の空で太陽系の7つの惑星を観察するチャンス！

7月23日午前4時20分の空（ステラナビゲータ11／アストロアーツ）



7月23日午後9時の東の空

夏はどんな星空が楽しめますか？

【先生】夏の夜空では、七夕のお話に登場する織姫星のベガ（こと座）、彦星のアルタイル（わし座）と、はくちょう座のデネブの3つの一等星でつくる「夏の大三角」を見つけることができます。また、毎年お盆の時期にピークを迎える流星群なども楽しみの一つです。そんな中でも今年、ぜひ挑戦したいのが明け方の空での7つの惑星の観察です。

7つも惑星が観察できるんだ！でも、そもそも惑星ってどんな星なの？

【先生】惑星は恒星（自分で光を放つ星）の周りを回っている星です。太陽は恒星で、太陽の周りを回っている惑星は太陽から近い順に、水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星の8つあります。このうち、私たちの住む地球から肉眼で見ることのできる惑星は、水星・金星・火星・木星・土星の5つです。

天王星や海王星は暗い惑星なので、正確な位置を調べてから双眼鏡や望遠鏡を使って観察する必要があります。惑星は、太陽の周りをそれぞれ違った周期で回っているため、夜間に全ての惑星が地平線上にあることは珍しいことです。

7つの惑星が同じ空に勢揃いするのはすごいことなんだね。ところで、太陽系の惑星の中に、私たちが住むことができる星はあるの？

【先生】太陽系の惑星は、水星、金星、地球、火星のようにおもに岩石でできている地球型惑星（岩石惑星）と木星、土星、天王星、海王星のようにおもにガスや氷でできている木星型惑星（ガス惑星）に分けることができます。木星や土星のようにガスでできた惑星では、表面に降り立つこともできないため、人が住むことは難しいでしょう。では、岩石でできた地球型惑星はどうでしょうか？

水星は大気がなく、昼と夜の温度差が約600度と、とても大きいのが特徴です。また、金星は、地上から出る熱を大気中に保つ働き（温室効果）をもつ二酸化炭素の濃い大気に覆われ、平均気温が約460度にもなり、どちらも住むことは難しいでしょう。最後に火星は、大気が薄く、熱が逃げやすくなっており、我々のような生命の存在は確認されていません。しかし、水があった痕跡や水があることが分かっており、技術開発がさらに進めば、将来住むことができる可能性がある惑星と言えるでしょう。

そうなんだ。そんな7つの惑星を観察するには、いつ、どこの空を見ればいいの？

【先生】7つの惑星を同じ空で見ることができるのは、7月下旬の明け方、午前4時過ぎ頃です。東の空に昇り始めた水星、金星、南の空に火星、西の空に沈みかけた土星、木星を見ることができます。水星や木星は空の低い位置にあるので、建物など視界をさえぎるものがない場所で観察しましょう。また、天王星は双眼鏡、海王星は望遠鏡を使えば観察することができます。

早起きをして、おうちの人と一緒に惑星を観察しよう。

この記事に関するお問い合わせは福岡県青少年科学館（久留米市東櫛原町1713）へ
TEL ０９４２-３７-５５６６
FAX　３７-３７７０

広報委員のひとりごと

県Ｐ新聞作りも今回で最後となりました。これまで私の学校のＰＴＡ新聞にはよく目を通していましたが、県Ｐ新聞には正直あまり注視していませんでした。しかし、そんな自分が新聞作りに携わることになり、多くの方々に支えていただきながら取り組んできました。

県Ｐ活動は多岐にわたり、学校・保護者・地域の声を直接、福岡県・自治体などに届ける重要な役割を果たしております。多くの方々が、わが子だけでなく、たくさんの子どもたちの笑顔のために活動されていることを知りうれしく思いました。これからも、子どもたちと楽しみながらＰＴＡ活動に参加していきたいと思います。（Ｉ）